

親子で体験「絵本の世界」～絵本の魅力を感じよう～

(R4.12.17(土)～12.18(日))

◆目的

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、体験活動等の機会が減少していることを踏まえ、読書活動の機会を設け、体験活動等の重要性を広く普及・啓発する。

◆目標

- (1) 親子で体験活動を楽しみながら、読書活動の魅力を感じる。
 - ①絵本に対して、大人も子どもも「おもしろい」「読んでみたい」等の関心を持つ。
 - ②絵本から遠ざかる年代(小学校高学年)の児童が、改めて絵本の良さに気づく。
- (2) 想像の世界を五感を使った実体験にすることで、新たな発見や気づきを楽しむ。
- (3) 体験活動の重要性について知る。

◆参加実績

小学生を含む家族 8家族 27名(未就学児7名 小学生8名 保護者12名)

◆講師

絵本専門士 洞本 昌也 氏(株式会社ふたば書房 代表取締役/絵本カフェ Mébaé 店主)

◆日程

1日目 12月17日(土)	2日目 12月18日(日)
13:00 受付	7:00 起床
13:30 はじまりのつどい・アイスブレイク	7:40 朝食(レストラン)
14:20 たき火でのんびり	9:00 絵本わくわくタイム② ～絵本を作ろう～
17:00 入浴	12:10 昼食
17:50 夕食(レストラン)	13:00 おわりのつどい・アンケート
19:00 絵本わくわくタイム① ～読み聞かせを楽しもう～	14:00 解散
21:30 就寝	

◆活動の様子

(1) たき火でのんびり

事前に絵本の読み聞かせを行い、たき火について想像を膨らましたうえで活動を行った。たき火台、薪、マッチのみを渡し、落ち葉などの自然物を自由に使い、自分たちで薪に火が付くか話し合い、火を付けることに挑戦した。マシュマロを焼いたり、火を囲んで絵本を読んだりしながら家族でのんびりたき火を楽しむ様子が見られた。



(2) 絵本わくわくタイム①～読み聞かせを楽しもう～

はじめは親子分かれて活動を実施。保護者は絵本の効能・効果、選び方についてなど、幅広い絵本の知識を絵本専門士から学ぶことができた。子どもたちは、絵本「いもむしれっしゃ」の世界を想像して模造紙に書く活動を行った。その後、親子で合流し、絵本専門士による絵本紹介や絵本の「選定者」を体験する絵本探しゲームに

参加。そのほか、開くと数メートルにもなる絵本など、普段見ることのできない絵本と触れ合う機会となった。



(3) 絵本わくわくタイム②～絵本を作ろう～

絵本専門士の指導のもと「しりとり絵本」を作成。拾った自然物を画用紙にスタンプして模様を作る中、自然物の大きさや形、模様の違いを楽しんだ。また、画用紙を折り、はさみを入れ、製本テープで貼り付けを行う製本作業を行い、絵本の「作り手」を体験した。最後に出来上がった絵本について発表し、参加者の大切な思い出となった。



◆成果

- ・事業に参加した小学生と保護者を対象に事業全体や活動内容についてのアンケートを実施した結果、小学生、保護者共に事業全体に対し、全員が「満足した」と回答し、参加者満足度の高い事業が実施できた。
- ・同様のアンケートにて、小学生は「絵本の面白さを知れた」「家で絵本を読みたい」「絵本作りが楽しかった」など、絵本に対して興味・関心があると推測できるような意見の記入が全員に見られた。保護者は「絵本の魅力を知ることができた」「子どもが本を読む環境を整えたい」「自分自身も絵本を読もうと思った」など、絵本の良さを再確認し、家庭に積極的に取り入れようとする回答が多く見られた。以上の結果から、事業目標である「親子で体験活動を楽しみながら、読書活動の魅力を感じる」を達成できたと考える。
- ・「たき火でのんびり」では、たき火の想像を膨らますために、活動前に絵本「ひぼうぼう」を読み聞かせた。活動では、子どもも保護者もどのようにすれば火が付くのか、何が燃えるのかを考え、主体的に行動する姿がうかがえた。子どもたちからは「火が大きかった」「あたたかかった」などの感想が聞けた。また、保護者からは「子どもが一生懸命火をつけている姿に驚いた」という実際の体験からの気づきが多く記入された。よって、「想像の世界を五感を使った実体験にすることで、新たな発見や気づきを楽しむ」という目標が達成できたと考える。

◆参加者の声

【小学生】

- ・たき火やたき火でたべものをやいたのは初めてだったから楽しかった。
- ・キャンプがとてもよかった。どうしてかという、火が大きいから、あたたかいからです。
- ・たき火でマシュマロを焼くのが楽しかった。マシュマロがおいしかった。焦げたり、おいしかったりいろいろあったから。
- ・マッチを初めて使ったのがうれしかったです。
- ・火を付けてよかったです。花と葉っぱでやるのがよくしりました。
- ・とっても楽しかったです。そしてあたたかいです。よかったなと思いました。
- ・おうちに帰ったら、たき火を家族でやってみたいです。
- ・しゃちょう（絵本専門士）のながーい絵本がとってもすごかったです。
- ・いろんな本が読めて楽しかったです。
- ・絵本にはたくさんの楽しみがあって、楽しかったです。家に帰っても本を読みたいです。
- ・もう一度やってみたいことは、絵本作りです。理由は、葉っぱ集めやスタンプが楽しかったからです。
- ・しりとりの本をつくれて楽しかった。お店の名前などいろいろ考えたからです。
- ・しゃちょう（絵本専門士）が楽しく遊んでくれてうれしかったです。もう一度会いたいです。

【保護者】

- ・たき火は初めての体験で、子供たちがこんなに夢中になるものだとは…。びっくりでした。絵本を通しての体験も大人も楽しめてよかった。
- ・子どもたちだけでどうしたら火が付くか考えながら、たき火に挑戦できたのがすごく勉強になった。初めてマッチをつかったり、落ち葉を足すと火が強くなったり、考えながら学べてよかった。
- ・子供たちがずっと夢中になっていた。葉っぱで火の大きさを管理するのに熱中していたのが発見でした。
- ・子供が実際に「やってみる」ができたのがよかった。
- ・火の大切さ。火を見ると落ち着くのはなぜだろう。またキャンプをやってみたいと思った。
- ・絵本についていろいろな角度から知ることができ、絵本を作るプログラムでは家族みんなで楽しく参加できた。
- ・大の本好きの娘にとって、とっても充実していた。絵本は卒業してしまった娘だが、絵本に触れ合えて嬉しそうな姿を見たら、今の本好きはこの絵本から始まったんだと。原点に戻れた気がした。
- ・親子で親しんでいた絵本にも知らないことがあり、お話、楽しかった。娘は作るのにずいぶん集中していた。
- ・絵本専門士に会う機会なんてそうそうないと思うので、会ってお話が聞けて嬉しかった。本についての助言をいただき、自分自身また本を手にとって娘と読んでみようと思えた。絵本作りもとても難しかったが、子供の力ってすごいなと思った。次々いろんな言葉が出てきてびっくりした。
- ・スマホゲームばかりしてしまうので、少しでも本に移行できるように考えてみようと思う。
- ・絵本の魅力を知り、たくさんの絵本を買いたいと思った。家の中にも本棚を作り、子供がたくさん絵本に触れ合える環境を作りたいと思う。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・絵本専門士に指導を依頼したことで、絵本の「選定者」「作り手」という一般的な「読み手」以外での絵本との関わり方の視点を持つという内容で、絵本の専門的な知識を踏まえて活動を実施できた。
- ・火おこしに挑戦する際、2家族で一緒に行う場を設けたことで、家族間の会話が発展し交流へと繋がった。着火について具体的な手順や方法の説明を行わなかったが、家族間で交流できる場を設定したことで参加者同士が建設的に話し合いを行う姿があった。
- ・たき火の際に雨が降っていたが、可能な限り外での活動を提供したいという意図から、活動の実施方法を担当者間で相談し、たき火の場所の変更や安全の確認を行ったうえで実施する判断をした。自然の家を初めて利用される家族が多く、雨の中での活動に不安を感じているような様子があったが、かっぱを着て、雨の中で活動するという非日常を楽しんでいただき、十分に満足していただくことができた。
- ・たき火実施前に、参加者の体調や持ち物の確認を徹底し、雨の状況や緊急時の対応を説明したうえで、参加については家族に判断を委ね、無理のない範囲で活動に参加していただいた。また、体調不良者が出た際も同様に、状況を全てお伝えしたうえで参加継続について家族ごとに判断を委ねた。予定外のことが起きた際に、運営側で全て決めてしまうのではなく、参加者に状況を説明し、そのうえで判断していただくことで、不安を最低限に抑えることができ、参加者から「包み隠さず丁寧に情報を共有していただけたので、安心して参加できた」と言葉をいただいた。
- ・想像の世界と実体験を比較するために、活動の導入に絵本の読み聞かせをした。活動前後に子どもにイメージを膨らますような問いかけをしたり、音や大きさを表現したりする時間を設けるなどの比較する場があれば、参加者の気づきをより引き出すことができたのではないかと思う。
- ・「雨だと屋内で過ごすと思っていたので、雨具の準備をしていません」という参加者がいた。参加者の中には自然体験活動に慣れていない方や、自然の家を利用したことがない方いることを踏まえ、事前に雨天時の予定や、それに伴う準備物について再度連絡を行うと参加に対しての不安を取り除けるのではないかと感じた。